

Golden Days Abroad in Derbyshire

～ 姉妹都市 英国ダービーシャーを訪ねて～

第3回ダービーシャー高校生派遣 帰国報告書



目次

■ はしがき	p1
■ ダービーシャー派遣学生・引率教諭名簿	p2-4
■ 派遣日程	p5-6
■ ホストファミリー組合せ一覧	p7
■ 滞在中の当番日記	p8-20
■ ホストファミリー紹介・派遣を終えて	p21-47
■ 英語感想文 (Reflections on experiences in Derbyshire, written by each student in English)	p48-63
■ 豊田市・ダービーシャー姉妹都市交流資料	p64-69

は し が き

豊田市長 太田 稔彦

豊田市と英国ダービーシャー県・ダービー特別市・南ダービーシャー市は、1989年にトヨタ自動車株式会社が現地法人を南ダービーシャー市バーナストーン地区に設立されたことを契機に交流を開始し、1998年11月に姉妹都市提携を結びました。以来、市民を主体とした様々な交流の歴史を重ね、相互理解と友情を育んでまいりました。

ダービーシャー高校生派遣事業は、語学研修、バートン&サウスダービーシャーカレッジでの学校生活体験、現地学生たちとの交流、ホームステイ等を通じ、豊田市とダービーシャーの友好親善及びグローバルな視点をもった人材の育成を目指し、2014年度に開始しました。3回目となった2016年度の派遣事業では、16名の市内の高校生が、約2週間に及ぶ派遣を無事に終え、ここにダービーシャーの様子や現地での異文化体験の記録を報告書としてまとめました。多くの皆様にご覧いただき、ダービーシャーの魅力や、姉妹都市ならではの交流事業の意義を感じ取っていただければ幸いです。

派遣生たちは、日本の外に出ることで、豊田市について見つめ直すことができたことと思います。この経験を学生生活に生かしていただくとともに、今後も豊田市とダービーシャーの架け橋になっていただくことを期待しております。

また、2019年には、ラグビーワールドカップが豊田市でも開催されます。都市の国際化の進展には、市の将来を担う若い世代の皆さんの国際的な感覚と行動力が不可欠です。是非、この高校生派遣事業に対し、今後も多くの皆様に興味を持っていただけることを期待しております。

おわりに、今回の高校生派遣事業にご理解とご協力をいただきましたご家族、学校関係者の方々をはじめ、派遣団に貴重な機会と経験を与えてくださったバートン&サウスダービーシャーカレッジ事務局、ホストファミリー、ダービーシャー地域住民の皆様にご心からお礼を申し上げます。

(1) 派遣生徒 (全 16 名 (男 : 4 名、女 : 12 名)、順不同)

No.	学校名	学年	氏名	
1	豊田工業高等専門学校	2	ヤマネ ダイキ 山根 大輝	
2	豊田西高等学校	2	ハセガワ キヨウコ 長谷川 響子	
3	豊田東高等学校	2	キムラ タツヤ 木村 達也	
4	衣台高等学校	1	コヂラ アリサ 小寺 有紗	
5	猿投農林高等学校	2	ヤマモト アリサ 山本 有紗	
6	松平高等学校	2	イイダ ダイキ 飯田 大輝	
7	豊田工業高等学校	2	クマダ ミカ 熊田 実華	

No.	学校名	学年	氏名	
8	足助高等学校	2	澤田 実穂 サワダ ミホ	
9	加茂丘高等学校	2	岩崎 菜摘 イワサキ ナツミ	
10	豊田北高等学校	2	西尾 萌花 ニシオ キエカ	
11	豊田南高等学校	2	今吉 彩 イマヨシ アサ	
12	豊田高等学校	1	館尾 かおり タテオ カオリ	
13	豊野高等学校	2	本田 友里 ホンダ ユリ	
14	杜若高等学校	2	尾藤 良哉 ビトウ リョウヤ	

No.	学校名	学年	氏名	
15	豊田大谷高等学校	1	堀内 華 <small>ホリウチ ハナ</small>	
16	南山国際高等学校	2	齊藤 未来 <small>サイトウ ミキ</small>	

(2) 引率教員

学校名	氏名	
豊田高等学校	村瀬 義彦 <small>むらせ よしひこ</small>	
豊野高等学校	松藤 義広 <small>まつふじ ともひろ</small>	



■ 派遣日程 *時刻は現地の時刻で表記しています

	月日 (曜)	発着地	発着 時刻	交通 機関	スケジュール 【宿泊地は全て ホストファミリー宅】
1	3/11(土)	神田公園 集合	05:30		神田公園集合、荷物をバスに積込
		神田公園 発	05:35	貸切バス	市役所大型バスにて空港へ
		中部国際空港 着	06:50		
		中部国際空港 発	07:45	NH 338	全日空第 338 便で成田空港へ
		成田空港 着	08:55		成田空港到着 乗換
		成田空港 発	11:25	KL862	KLM オランダ航空第 862 便でアムステルダムへ
		アムステルダム 着	15:30		アムステルダム・スキポール空港到着
		アムステルダム 発	16:30	KL1431	KLM オランダ航空第 1431 便でバーミンガム国際空港へ
		バーミンガム 着	16:30		バーミンガム国際空港到着
		バーミンガム 発	17:30	貸切バス	BSDC 手配のバスにて BSDC へ
		バートン 着	18:30		BSDC 到着、ホストファミリーと対面、各家庭へ移動
2	3/12(日)	終日 ホストファミリーと過ごす			
3	3/13(月)	AM 英語講座(自己紹介)		PM オリエンテーション、キャンパスツアー	
4	3/14(火)	AM 英語講座 (イギリスの文化について)		PM 英語講座(現地学生と交流)	
5	3/15(水)	英国トヨタ自動車訪問		PM ロンドンツアーの準備	
6	3/16(木)	AM セントジョージズパーク見学、 午後の訪問準備		PM 子ども博物館、 サドバリーホール見学	
7	3/17(金)	AM イギリス料理教室		PM アフタヌーンティー体験、 日本の料理紹介	

8	3/18(土)	終日 ロンドン日帰りツアー (大英博物館、ピクベン、国会議事堂等、詳細は調整中)			
9	3/19(日)	終日 ホストファミリーと過ごす			
10	3/20(月)	終日 南ダービーシャー・ロズリントン林業センター でのスポーツ・野外活動			
11	3/21(火)	AM クリエイティブ・メディア・ ワークショップ1		PM クリエイティブ・メディア・ ワークショップ2	
12	3/22(水)	AM エキシビション&カル チャー・ショー準備		PM 現地学生と昼食後、カル チャー・ショーの準備	夕方 エキ シビション &カルチャ ー・ショー
13	3/23(木)	パートン 発	05:45	貸切 バス	BSDC 手配のバスにて空港へ
		バーミンガム 着	08:30		バーミンガム国際空港到着
		バーミンガム 発	09:25	KL1422	KLM オランダ航空第 1422 便で アムステルダムへ
		アムステルダム 着	11:35		アムステルダム・スキポール空 港到着
		アムステルダム 発	14:30	KL861	KLM オランダ航空第 861 便で成 田空港へ
14	3/24(金)	成田空港 着	09:45		
		成田空港 発	17:00	NH337	全日空第 337 便で中部国際空港 へ
		中部国際空港 着	18:10		
		中部国際空港 発	18:45	貸切 バス	市役所大型バスにて豊田へ
		神田公園 着	20:00		神田公園到着、解散

■ホストファミリー組合せ一覧

高校名	性別	氏名	ホストファミリー
豊田工業高等専門学校	男	山根 大輝	Elaine Phillips
豊田西高等学校	女	長谷川 響子	Lyn Barlow
衣台高等学校	女	小寺 有紗	Anne Brookes
豊田工業高等学校	女	熊田 実華	Anne Brookes
猿投農林高等学校	女	山本 有紗	Steve Sainsbury
足助高等学校	女	澤田 実穂	Steve Sainsbury
豊田高等学校	女	館尾 かおり	Steve Sainsbury
加茂丘高等学校	女	岩崎 菜摘	Andy Chamberlain
豊田北高等学校	女	西尾 萌花	Andrew Kinnard
豊田南高等学校	女	今吉 彩	Andrew Kinnard
松平高等学校	男	飯田 大輝	Nathan McGowan
豊野高等学校	女	本田 友里	Louise Washbrook
杜若高等学校	男	尾藤 良哉	Monica Hencliffe
豊田東高等学校	男	木村 達也	Monica Hencliffe
豊田大谷高等学校	女	堀内 華	Aqeeda Shah
南山国際高等学校	女	齊藤 未来	Paul Fitzpatrick
豊野高等学校	男	松藤 義広 (引率教諭)	Noel Richardson
豊田高等学校	男	村瀬 義彦 (引率教諭)	Noel Richardson

滞在中の当番日記

■滞在中の当番日記

3月11日

齊藤 未来



朝の3時に起きたせいか、楽しい気持ちと同時にとても眠かったです。集合時間より少し早めに神田公園に着きました。気温は低く、寒かったですが、みんなで嬉しさのあまりしゃべったり写真を撮ったりしていました。2時間近くかかりセントレアに到着し、1時間で成田空港に着きました。さらに14時間かけてアムステルダムスキポール空港に行き、バーミンガム空港に着いたのは現地時間の16時くらいでした。そこから大きめのタクシーでBurton and South Derbyshire Collegeへと向かいました。大学ではすでにホストファミリーが待っていて、全体で写真を撮った後、各ステイ先へと行きました。私のホストファミリーは少し遅れてきましたが、初めてPaul, Shernia, Ryleeと会った時は、うれしくてたまりませんでした。大学から家へと向かう車の中ですぐに話が盛り上がり、ずっと話が尽きることがなかったです。私は疲れ切っていたのですが、すぐにそれが吹っ飛びました。Fayは家で待っていて、ハグで迎えてくれて、すぐにこの家族が大好きになりました。そして、サンドウィッチを作ってくれたので、子供たちとおしゃべりをしながら食べました。機内食がほとんど食べられなかったのととてもおいしかったです。日本からのお土産をあげると、喜んでくれたので安心しました。また、”You speak very good English, I mean it, really.”と言われてすごうれしかったです。もっともっとならしゃべって、仲良くなって、たくさんの思い出を作ろうと思いました。もうすでにイギリスでの生活を満喫しています。これから二週間が楽しみでならないです。(齊藤)

3月12日

本田 友里

この日は前日にホストファミリーからリラックスdayと言われていたので、私は10時頃に起床しました。

長女のMeganに説明をしてもらいながら、昼ご飯にパンを食べました。また、ホットチョコレートをだしてもらい甘かったです、とてもおいしかったです。

そのあと、Meganにバス停までの道のりを教えてもらいました。そして、帰る途中にあったスーパーマーケットに寄り、お菓子などを買いました。

夕方頃に、ホストファミリーのおじいちゃんの家に行きました。おじいちゃんの家に行く途中の車の中では、みんなで歌をうたいテンション高めで盛り上がりました。

おじいちゃんやおばあちゃんはとてもフレンドリーな方々で楽しく会話できました。ハグもしてもらいました。

夜ごはんは、にんじんとブロッコリーとポテトを使った料理でした。おいしかったです、ナイフとフォークの使い方には苦戦しました。(本田)



3月13日

堀内 華

今日からBSDCに登校です。イギリスに来て初めて1人でバスに乗るのはとても不安でしたが、なんとかたどり着くことができました。イギリスのバスは日本のように各バス停でアナウンスが無いので、自分で考えてボタンを押さなければなりません。午前中は、校舎で学生登録をし、その後はバディの生徒さんと話したり、一緒に授業を受けたりしました。授業では、自己紹介とイギリスの中の4つの国について学びました。英語での説明が聞き取れるか心配



でしたが、ほとんど理解することができました。担当の Sam 先生はとても面白い方で、説明も分かりやすく、楽しかったです。昼食は学食を食べました。ちゃんと野菜もあり、栄養面でも良いと思いました。午後はキャンパスツアー、校舎周辺のショッピングモールの散策でした。BSDC は各種設備がパソコンや図書館などかなり充実していました。近所のショッピングモールは大半のお店が日本よりも物価が安くて驚きました。でも、買いすぎないように気をつけます。多分毎日来ても飽きないくらいです。明日からも BSDC での生活を楽しみ、たくさんのお話を学びたいと思います。(堀内)

3月14日

長谷川 響子

天気は晴れで過ごしやすい 1 日でした。昼には太陽が出ていて、暖かかったです。今日の朝から初めてバスに乗る人が多かったので、前日から皆学校にたどり着けるか心配していましたがほぼ全員が時間内に集合できました。この日は、英語教師 Sam の授業がメインでした。午前中はイギリスの文化を学びました。席替えを交えてチーム戦で授業が進んでいき、たくさんの友達やバディと話すことができとても楽しい雰囲気の中でイギリスについて学ぶことができました。特に私はイギリスの食文化について教えてもらったことが強く印象に残っています。イギリスには豊富な伝統料理があることがわかりました。もちろんフィッシュアンドチップスも授業に出てきました。午後のディベートでは 8 個のネタでたくさん討論できました。イギリス人からイギリス文化を学べるのはとても貴重な体験だと思いますが、ディベートなどは日本でもできることはデイビッドから学べると正直思いました。たった 4 人のバディと日本人の生徒だけでなく、もっと現地の同世代の学生と交流し、イギリスでの時間を有効に使いたかったです。

学校の後、ホストファミリーと学校前で待ち合わせしました。授業が少し物足りなかったぶん、ホストファミリーととことん会話しました。夕飯は習ったばかりのフィッシュアンドチップスでした。味が薄かったのですが、これがイギリスだと受け入れて美味しくいただきました。ホームステイ先の家族が私に何でも試させてくれる優しくあたたかい人たちなので、イギリスを心から満喫できました。(長谷川)

この日の夕飯:フィッシュアンドチップス↓



3月15日

山本 有紗

英国トヨタ自動車訪問

イギリスにあるトヨタ自動車の工場を見学しました。

まず初めにプロジェクターを使ったイギリスのトヨタ自動車の説明を聞きました。幼稚園児たちとの交流事業や、環境に配慮した自動車製造を行っているということが印象に残っています。

工場内部の見学では、驚いたことが2つあります。1つ目は、部屋の名前などが日本語表記になっていたことで、2つ目は、工場内で日本の音楽が流れていたことです。工場も、周辺の建物はきれいで自然に囲まれていました。

昼食は日本人社員の方、イギリス人社員の方と食べました。日本のスマートフォンアプリの「snow」で写真を撮ったり、日本の食べ物について話したときはとても盛り上がりました。楽しく交流しながら工場見学ができたことは、とてもいい思い出です。(山本)



3月16日

山根 大輝

今日は、St. George's Park と Childhood Museum と Sudbury Hall に行きました。

午前中は St. George's Park に行きました。ここはサッカーに関する施設で、イギリス代表の選手たちが使うような素晴らしい施設です。ここでは、インドアサッカーコート、フットサルコート、アウトドアサッカーコート、ロッカールーム、プール、選手のサインが書かれた壁、トレーニングルームを見ることができました。僕は、この中でもトレーニングルームの設計に興味を持ちました。トレーニングルームの一面はガラス張りになっており、そこからサッカーコートを見ることができます。ケガをした選手がリハビリをしながら他の選手のプレーからインスピレーションを受け、トレーニングに励むことができる設計になっています。選手のことを考えられており、感銘を受けました。

午後には Childhood Museum と Sudbury Hall に行きました。この2つは隣接されています。Childhood Museum は、昔のおもちゃが展示されている博物館です。Sudbury Hall は、ナショナルトラストの1つであり、BBC ドラマ「高慢と偏見」のロケ地としても有名です。Childhood Museum では昔の子どもたちが使っていたおもちゃだけでなく、当時の学習環境や労働環境も見ることができました。自分たちの環境がいかに良い環境であるかを実際に見ることで認識しました。また Sudbury Hall では、多くの絵画や肖像画を見ることができました。施設内はとても美しく、雄大でした。(写真は Sudbury Hall の外観です)(山根)



3月17日

木村 達也

今日は英国料理作り体験とアフタヌーンティー体験でした。僕にとっては大きな役割である日本料理紹介もありました。

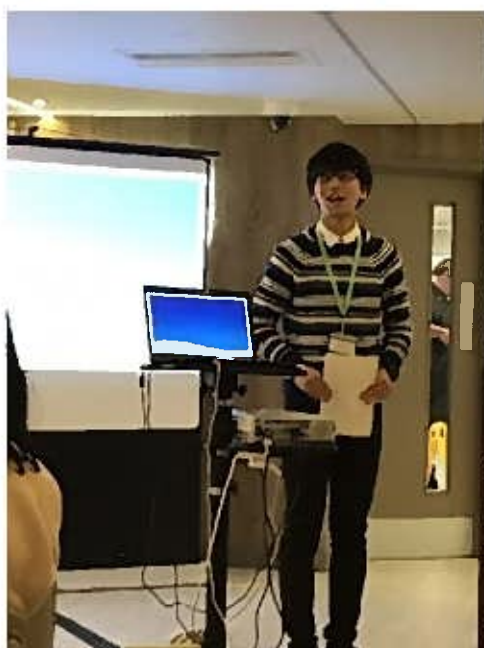
英国料理作りはテーブルセットから始まり各自イギリス人パートナーが付き、デザートやサンドウィッチを各自の分担に分かれて作りました。テーブルセットはナフキンを折ったり、スプーンやお皿を並べました。料理作りで1番印象に残ったのはイギリスではお皿を洗うときに泡が付いたまま布巾で拭いていたことです。日本人にしたらとても非衛生的だなと感じました。でも料理はとても美味しく出来ました。

アフタヌーンティー体験では紅茶とココアを頂きました。ここでいつも話さないバディと仲良くなることができ、笑いが絶えない時間になりました。またテーブルセットを教えて下さったジャマイカ出身の方が面白くて仲良くなりました。

実際に自分たちが作ったものを食べるととても美味しかったです。また、ジャマイカ出身の方がジャマイカでの挨拶を教えてくださいたりしてここでも笑いの

絶えない時間になり、プレゼンを控えていた僕にとってはとても緊張していたので緊張が少し和らぎました。プレゼンは3人の中のトリでした。喋り出しから盛り上げることができてとてもやってよかったと思いました。終わった後も色んな方が“Well done!!”や“Your presentation was nice!!”と声をかけて下さいました。

学校が終わりショッピングのあと帰宅し、今日作ったケーキをホストファミリーに食べてもらいました。美味しく食べてくれて良かったです。またホストファミリーもジャマイカ出身なので今日会ったジャマイカ出身の方との話をしたら盛り上がりました。(木村)



3月18日

澤田 実穂、岩崎 菜摘

待ちに待ったロンドン観光の日。行きのバスからみんなの気分は高ぶっていました。まず、私たちは大英博物館を訪れ有名な品の数々を見て回ったり、お土産を選んだりしました。その後、私たちはコヴェント・ガーデンへ向かいそこで昼食を摂ったりジュビリー・マーケットで買い物をしたりしました。そして、国会議事堂やビッグ・ベン、ウェストミンスター寺院を歩きながら見て、バッキンガム宮殿へ行きました。そこに行くまでには黒の大きな馬にまたがった兵隊さんがいたりしてみんなでかっこいいところぞって写真を撮りました。周りの建物もすべてがオシャレで迫力がありました。バッキンガム宮殿の門に施された紋章はとても細かくて美しいものでした。私たちは最後にキングス・クロス駅に行きました。Harry Potter 好きの私にはたまらない場所でした。9と3分の4番線のところで記念に写真を撮り、その隣にあるHarry Potter ショップでグッズを買いました。私はポストカードやピンズ、映画『Harry Potter』で

ハーマイオニー・グレンジャーが使用しているタイムターナーのネックレスを購入しました。ダービーシャーとはまた違うことを体験でき、とても充実した1日になりました。(澤田)



3月18日、私たちはロンドンへ行きました。朝の8時15分に集合し、バスでロンドンへ向かいました。私は初めてのロンドンだったので、すごく楽しみでした。大英博物館に行ったり、ロンドンの街並みを歩いたり、ロンドンアイやビッグベンを見たり、バッキンガム宮殿やハリーポッターで有名なキングスクロス駅を訪れたりなど、とても充実した1日を過ごしました。

大英博物館は、とても広く、時代ごとにわかれており、たくさんの方が来ていました。私は主にエジプトの作品を見ました。ロゼッタストーンやモアイ像、ツタンカーメンなども展示されておりたくさんの方が見に来ていました。見えない作品がたくさんあるので、また今度見に行きたいと思いました。

ロンドンの街並みを歩くと車やパトカーが走っているのを見たり、建物を見たりなど、日本とは全然違う景色に圧倒されました。そして、ロンドンアイとビッグベンを初めて見て感動しました。特に、夕方に見たビッグベンがとてもきれいで感動しました。

エリザベス女王が住んでいるバッキンガム宮殿に行きました。そこでは、写真をたくさん撮りました。訪れた時、エリザベス女王が中にいると聞いてとても驚きました。

最後に向かったのは、ハリーポッターで有名なキングスクロス駅です。私は、ハリーポッターが好きなので、とても楽しみでした。実際に9・3/4番線



のところへ行って目にしたときは興奮しました。友達と一緒に写真を撮りました。その後は隣にあるハリーポッターショップへ行きました。そこはたくさんのハリーポッターのグッズが販売されており、私はパーカーやマフラ、キーホルダーなどたくさんのハリーポッターのグッズを買いました。また行ったときは、今回買ったグッズとは違うグッズを買いたいです。

さまざまなところに訪れて、歴史に触れあい、感動したりなどとても充実した1日でした。また、とても大切な思い出がたくさん増えました。もう一度ロンドンに行きたいです。その時は、今回訪れたところとは違うところに行きたいです。(岩崎)

3月19日

西尾 萌花、舘尾 かおり

今日は、1日ホストファミリーと過ごす日でした。私のホストファミリーは教会へ行ってしまったので、あやとゆりと山根と一緒にバスに乗って、隣町のDerbyというところにある intu Derby という大きなショッピングモールへ行きました。intuは学校の近くにあるショッピングセンターよりもだいぶ大きくて、ご飯を食べるところもたくさんありました。大きいショッピングモールだったので、近くには売っていないものが売っていたり、安く売っていたりして、お土産を買ったり、自分のものを買ったりとても楽しむことができました。

そして私は、ここでイギリスに行ったら1番行きたかった念願の Build a bear へ行くことができました! Build a bear に行くと学校が休みでみんなに会うはずの日ではなかったのにもかかわらず、半分くらいの人がいっぱいびっくりしました。最初はぬいぐるみを作るなんて、、、って言っていた子もいたけれど、実際にお店に行くとみんなとってもテンションがあがってノリノリで服を選んだり、綿を詰めたりしたりしていました。とっても可愛いぬいぐるみができ、大満足な1日になりました。(西尾)



今日はホストファミリーの Steve と Dorothy とダービーシティセンターというショッピングモールに行きました。イギリスに来てから、2度目の休日で家族全員でのお出かけをしました。

ダービーシティセンターはバートンから約1時間とそんなに遠くありませんでした。

私たちはずっと行きたかったビルドアベアに行きました。

そこには私たちの他にもたくさんの派遣生がいました。

ビルドアベアは意外と本格的でぬいぐるみの綿を詰めるところから始めます。それから服を選んだり、名前を考えたりとしているうちにだんだんとぬいぐるみに愛着がわきました。

そのあとイギリスで人気のプライマークという服屋さんに行きました。

プライマークというお店は服や靴、かばんがとても安く私も家族や友達にたくさん買いました。

ホストファミリーとこんなに長く過ごしたのは初めてだったので、本当に楽しい休日を過ごすことができましたと思います。(館尾)



3月20日

尾藤 良哉

3月20日、その日は雨でした。僕らは憂鬱でした、なぜこんな日に野外活動するのか、ほとんどの人はそう考えていたと思います。まず、2つのチームに分かれBSDCの生徒とシェルター作りとサイクリングをしました。シェルター作りは森の中で木や枝を使って人が十分入れるほどの大きなシェルターを作るというものでした。さらに2つのチームに分かれてどちらが立派なシェルターを作れるか競いました。結局、僕らのチームが勝てたので良かったです。

次にサイクリングをしました。別のチームは多くの人が倒れて怪我をした人もいたようです。それほど滑りやすくなっていた道を僕らは進みました。しばらくすると天気も晴れに変わりました。泥にまみれた僕らもいつのまにか笑顔になっていました。なんだかんだすごく楽しめ、ある意味良い思い出となりました。その後、キックベースのようなものをしてBSDCの人と楽しみました。最高でした。(尾藤)

3月21日

小寺 有紗

今日は、クリエイティブメディアワークショップをやりました。午前中は、写真を撮りペアの顔を書きました。顔を書く時には、ルールがありました。一つ目は、集中の80%は、見るに集中、20%は、書くに集中です。相手の顔をよく見ることが大事です。二つ目は、座らないことです。座ると姿勢が悪くなり、集中できないからです。皆、そっくりに書けたと思います。その後、絵の具を使って渡された友達のさっき撮った写真の裏に紙を貼り、ボードに絵の具を伸ばした上に紙の面を置き、鉛筆で写真をなぞりました。なぞり終わって裏を見るとすごく綺麗に出来ました。午後は、コンピュータを使って、バッチとTシャツを作りました。バッチは、皆可愛く出来てました。Tシャツは、それぞれ個性的ですごいと思いました。(小寺)



3月22日

今吉 彩、飯田 大輝

今日でイギリスにいられるのは最後。みんなでカルチャーショーの用意をしました。事前に作ったTシャツや絵を展示したり吉備団子を作ったりしました。桃太郎の練習では、衣装を着て通し練習をしました。

本番では、見事桃太郎大成功!!! 私たち自身も楽しみながら演技をすることが出来ました。最後に、一人ずつスピーチをすることになり、それぞれ感謝の気持ちを伝えました。私は、ほかのメンバー三人とPPAPならぬPPAP~BSDCver. ~をやりました。観客の方が温かい拍手と笑いをくださいました。まさかイギリスでPPAPをやるとは思わ



なかったのととてもいい経験になりました。一生の思い出です。

そのあと、ホストファミリーとご飯を食べましたが、その時に「She is my Japanese daughter.」と紹介してもらえてとても嬉しかったです。最後の食事のときは、娘として紹介してもらえたことや今までの感謝で胸がいっぱいになり、感極まって頭が回らなくて英語を話せなかったのにも関わらず、「彩の気持ちわかるよ、伝わるよ」と言ってくれ、自分から自分の気持ちを伝える大切さを知り、言葉を学ぶことも重要だがそれ以上に伝えようとする気持ちを持つことがより大切だと気付きました。

途中、警報装置の誤作動でみんなと学校の外に避難するというハプニングもありましたが、笑いあり涙ありの忘れられない一日となりました。まだ本当に帰るなんて実感がわかりません。(今吉)

今日がバディ、ホストファミリーと過ごすことができる最後の日、ということでそのお礼にみんなで桃太郎を英語で演じることになりました。午前、集まって準備をいざ始めようとしても、司会の原稿はどうするか、振る舞う餅はいつ提供するのか、決まっていないことが多くてそれらを解決しながら急ピッチで作業を進めました。結果として、みんなの頑張りがあり、良いものを作ることができました。また、桃太郎をする前にBSDCが立派な修了式を開催してくださり、修了証書をいただくことができました。本格的な物で、「ついにここを去るんだな」といよいよ実感し始めました。桃太郎を演じ終わると各自のスピーチに入りました。バディ、ホストファミリーに感謝の気持ちを伝えました。話しているうちに2週間でせつかく仲良くなれた矢先に別れてしまうことが寂しくて寂しくてたまらなかったです。その後、立食パーティーが始まり、仲良くなったバディやホストファミリーと最後の時間を楽しみました。作った餅はどうも顎が疲れるということで、外国人には不好評でした。最後、火災警報器が鳴るアクシデントもありましたが、それも含めて記憶に残る最後の夜になったと思います。(飯田)

3月23日

熊田 実華

ついにやって来てしまった最終日。長かったような短かったような私たちの海外派遣。少し思い出しただけで沢山の素敵な思い出が蘇ります。早朝に起き最後の朝ごはん、毎日食べてきたシリアルもこれで終わっちゃいます。そしてホストファミリーとの別れ。ホストファミリーには沢山のことを教えていただきました。最後の「See you again」には沢山の感謝や別れたくないという思い、もしかしたらもう会えないかもしれないという悲しさや寂しさなど私の中で色々な感情が溢れ泣きそうになりました。イギリスのオシャレな街並みともさよならをして空港へ、私たちは少し小さめの飛行機でイギリスのバーミンガム

空港からオランダのアムステルダム空港へと向かいました。アムステルダム空港から成田空港までは約11時間の空の旅。途中で食べた機内食の豚カツに懐かしさを感じると同時に、本当にイギリスから日本へ戻っちゃっているのだなと少し寂しさも感じました。長かった空の旅を終え日本へ帰国。そこで事件発生。なんと私のスーツケースがオランダに置き去りになっていました。後で郵送してくれるみたいなので安心しましたが。うっかりスーツケースに日本円を入れていた私はこれからの中部国際空港に行くまでの6時間の待ち時間をどうしようと頭が真っ白になりました。そんな私を救ってくれたのは「一緒にいよう」と言う友人の言葉でした。その時、私は持つべきものは友人だなと強く感じました。友人には感謝でいっぱいです。

そして最後のフライトを終え私たちは本当の家族のもとへと帰りました。2週間ぶりに見る家族の顔に安心と少しの照れくささを感じました。久々に食べた母の手料理は普段の何倍も何十倍も美味しかったです。(熊田)



ホストファミリー紹介・派遣を終えて

(1) ホストファミリーの紹介

(2) 派遣を終えて

(1) ホストファミリーの紹介

僕はこの2週間のホームステイで Phillips 家にお世話になりました。Phillips 家は、ホストマザーの Elaine とホストシスターの Michelle の2人暮らしの家族です。

マザーはとても優しく、毎日話しかけてくれました。僕に今日1日で起きたことや、自分の仕事、家族、日ごろ食べるご飯など教えてくれたり、話してくれたりしました。また、イギリスのアクセントに悪戦苦闘していた僕にゆっくり話すことで理解できるようにしてくれました。優しいマザーと毎日一緒に夜ご飯を食べながら会話をすることが毎日の楽しみでした。

シスターの Michelle は、彼女の仕事の関係であまり会う機会が少なく、たくさん話すことができませんでした。しかし、Michelle と Michelle の彼氏さんとマザーと僕の4人一緒に夜ご飯を食べた日はとても楽しかったです。みんなで一緒に日本語の挨拶を練習したり、どのような意味の日本語かを当てるクイズをしたりしました。とても面白く楽しい時間でした。ホームステイをしていて一番楽しかったとも言えるくらいです。

僕は2週間 Phillips 家でホームステイをすることができ、とても良かったです。充実した毎日を過ごせたのは、たくさんの人、特にマザーの支えがあったからこそです。日本に帰ってからもマザーと連絡をとっているのも、もう一度 Phillips 家に帰りに行きたいです。最終日には、最後のお別れにならぬよう” See you again!! ”とっておいたので、また会える気がします。また会いたいと心から思える温かい家族でした。

とても楽しい毎日でした。ありがとうございました。



(2) 派遣を終えて

僕はイギリス英語のアクセントに戸惑いました。小学生の頃アメリカに住んでいた経験があり、アメリカ英語のアクセントに慣れ親しんだ僕はかなり苦しみました。しかし、僕はホストファミリーやバディの人たちとコミュニケーションをとりたい、という気持ちがあったので、アクセントに慣れるまでテレビ

を見たり、ホストとゆっくりでも少しずつ会話をしたりしました。2, 3日もすると耳が慣れてきて、たくさんの人と会話ができるようになり、ジョークを言ったときに一緒に笑うことができました。この瞬間がとても嬉しかったです。

最後の夜のカルチャーショーの後に、みんなのホストと一緒にご飯を食べました。この時マザーの姉妹の家族も来てくださり、子供たちとたくさん話すことができました。昔家族でパーティーをした時の話や、背の順で家族写真を撮った時の話をしてくれました。とても面白く、みんなで笑いました。帰るときに、マザーの家族に「とても楽しい時間だったわ。私たちは今日よりもっと前から会っておくべきだったね。」と、言ってもらいとても嬉しかったです。自分が会話できるように努力した成果だと思います。この努力は無駄ではなかったと思えて、とても良かったです。

日本に帰るとき、アムステルダムから成田空港に移動する飛行機の隣の席の人が日本人の方でした。その方たちと少しお話をすることができました。自分がなぜイギリスに行き、何をしていたかを話しました。日本に着き、飛行機から降りる際に、「若いうちから海外に行き、その文化を体験することはとてもいいことだ。自分たちが子供の時にはできなかったことだ。この経験を活かして国際的に活躍してくれ、これからも頑張って。」と、言っていました。とても嬉しかったです。この方に言われたように、国際的に活躍できる人物になる、そう深く胸に刻み日本に戻ってきました。

2 豊田西高等学校

長谷川 響子

私のホームステイ先は子供2人を含む4人家族でした。中学校2年生の時に同じ年の Shannon を日本で受入れたことがあり、約4年前からこの家族と交流させてもらっていたからか、初日からあまり緊張することなくホストファミリーと接することができました。父の Chris は、とても親切なユーモアの溢れる方でいつも笑わせてくれました。夜勤の仕事が多々あり、夜遅くに家を出ていくことがありました。また Chris は、外出先のパブやレストランで、ものすごい量のお酒を飲みます。母の Lyn は一家の主人のような存在でした。ある晩に、私と子供2人と Lyn の3人がいつものテーブルに座り、Chris はどこからか小さい椅子を持ってきてそれに座って Chris が作った晩御飯を食べたことがあります。レディファーストなのか、Lyn が家の主人なのか、謎な光景でした。二人の子供は Shannon と Tom といいます。Shannon は身長が高く、同じ年とは思えないぐらい美しくおとなびていて隣を歩く自分が恥ずかしくなりました。将来学校の先生になりたいそうです。明るい性格で音楽を聞くと踊っていました。4年前からメールのやりとりで「会いたいね」とか「いつか絶対あなたの国に行く！」と書いていたので対面したときはうれしさのあまり Shannon のもとへ走っていき飛びついてハグしました。ホイットニーヒューストンの I will

always love you が似合う光景だったと思います！弟の Tom は 16 歳で軍の学校に通っていました。1 度だけ軍服を着て帰ってきたこともあります。音楽が大好きで、いつでもどこでもスマホで音楽を聴いていました。私は洋楽が幅広く大好きなので彼とは気が合いました。家族みんながとても優しく面白い方たちだったので全く日本を恋しいと思いませんでした。別れの時には涙が止まりませんでした。彼らには感謝の気持ちでいっぱいです。

派遣を終えて、私は日本がどんなに素晴らしい国かということに気づかされました。そしていろいろな人との出会いや別れが一番の思い出です。イギリスの人たちは温かい人がたくさんいます。日本人も、もちろん親切ですが大きな違いは、イギリス人は“話して優しい”ということです。日本人のやさしさは暗黙の了解という感じで帰国後に少し物足りなさを感じました。日本に帰ってきて私は一番日本の食文化に感動しました。白米を食べて涙を流しそうになったぐらいです。イギリスにいたときは普通に食べていた食事を思い出してみると、その時は平気でしたが今考えてみると全然おいしくないと感じる気もしますが正直そう思いました。イギリスの味は雑です。それに比べると日本は時間をかけたと思われる丁寧な味付けで、一食分のおかずの数や中華やインド料理など家庭内でもバリエーションが豊富の上にメニューもたくさんあります。すごく贅沢です。イギリスでは食に楽しみを求めていないように見えます。わたしは日本食に自信を持ちました。いつかホストファミリーに日本でご馳走してあげたいです。



3 豊田東高等学校

木村 達也

僕は今回のホームステイで Monica Henchcliffe のお宅に滞在し、お世話になりました。Monicaは二匹の猫のLillyとBeckyとアパートに住んでいました。

初めて会話した時は発音に癖があって聞き取りにくく、うまくコミュニケーションが取れませんでした。しかし、積極的に話しているうちに慣れてきて聞き取れるようになりました。家では夜食の用意と洗濯をしてくれました。ごはんを作っている時に歌を歌っていたので、歌が好きか聞いたら大好きだと答えました。Monicaは自分の部屋にいることが多かったですが、Monicaと話すといつも笑いながら楽しく話せたので良かったです。

ある日にお土産の一つとしてプレゼントした浴衣を着つけてあげたらとても喜んでくれました。また、イギリスに行った時に着つけてあげる約束をしました。またMonicaと会える日を楽しみに待っています。



僕は今回のダービーシャー高校生派遣が初の海外だったので、たくさん刺激を得ました。そこで、今回の派遣で特に気になったイギリスの生活習慣について二点まとめました。

<驚きのイギリス人の習慣>

*雨が降っても傘をささない

イギリスでは雨がよく降るというのはご存知だと思います。そんな雨ばかりのイギリスなので、当然イギリス人は傘が必須だと思いきや、イギリスでは傘をささない人が多いです。実際に僕がイギリスに滞在している時に何度か雨が降ったのですが、傘をさしている人を見かけませんでした。

イギリスの雨は、日本と違い、ミスト状だったり、ドリズルと呼ばれるボタ

ポタ落ちる雨だったりします。なので、傘をさしても結局濡れてしまうので効果がないそうです。そのため、少しの距離だったら傘をささずに歩くそうです。

* 食器の泡を洗い流さない

このことは自分の中で一番衝撃的なことでした。第七日目の英国料理作り体験で実際に目撃しました。

イギリス人は、食べた後の食器を洗う時、泡のついたまま布巾で拭いたり乾かしたりします。シンクにお湯を溜めて泡の中で食器を洗い、すすがないでそのまま終了するのです。きちんと洗い流さずに気持ち悪くないかと思うところなのですが、イギリス人は、問題ないと考えているようです。

<最後に…>

実際に異国で生活してみると日本の文化に慣れている私は驚きっぱなしで、実際に行ってみないとわからないことがこんなにもたくさんあるのだと感じました。でも、イギリスの習慣には悪いことばかりではなく、良いことも沢山あり日本にも取り入れたいなと思いました。日本人は優しい人が多いと言われていますが、断然イギリス人のほうが優しい人が多い印象も受けました。イギリス人の暖かさに包まれ、大変なことも多かったけど充実した二週間でした。



4 衣台高等学校

小寺 有紗

私はこの2週間、Anneさんファミリーにお世話になりました。家族構成は、父 Martin 母 Anne と二匹猫を飼っています。父の Martin は、緊張していた私たちに話をかけ、緊張を解してくれました。

母の Anne は、すごく面白い人で、いつも美味しいご飯を作ってくれました。私が鶏肉といちごが好物って言ったら、毎日のように出してくれました。

ホストファミリーは、私にとって、血の繋がってない家族になりました。

この派遣を通して、私は2つのことをもらい、学びました。

1つ目は、私はもう一つの家族もらいました。私のホストファミリーは、私

にとって、かけがえのない存在になりました。私たちを本当の娘のように優しくしたり、怒ったり、してくれました。離れ離れでも、連絡を取り合いたいです。

2つ目は、イギリスの文化について色々学んだことです。イギリスには、いろんな文化があります。その一つについて、話します。イギリスには、イースターという復活祭があります。その復活祭は、十字架にかけられて死んだイエス・キリストが三日目に復活したことを記念する祭りです。多くの教会で特別な礼拝が行われています。たまごの形のチョコレートは、新しい命と信仰のシンボルとして食べられます。

この派遣で私は、もう一つの家族とたくさんの友達ができました。

これからも、連絡を取り合いたいです。また、この異諸国の文化の違いを目で見て肌で感じることができました。



5 猿投農林高等学校

山本 有紗

(1) ホストファミリーの紹介

今回、私は Sainsbury 家にホームステイさせて頂きました。

家族構成は、Steve という 62 歳のおじいちゃん、Dorothy という 61 歳のおばあちゃん、そして Joshua という 23 歳のお孫さんの 3 人でした。

スティーブは、毎日おいしいディナーを作ってくれました。ジョークを言うことが大好きな彼は本当に愉快で、彼と過ごす時間はいつも笑顔が絶えませんでした。

ドロシーは、ショッピングが好きで、私たちがショッピングをして帰ってくると「Show me!!!」といい、買ったものを 4 人で見せ合ったりしていました。また、日本についてとても興味をもっていました。

ジョシュには、あまり会えませんでした。お互いに助け合いながら生活している、とても素敵なホストたちのもとにホームステイすることができ本当に幸せでした。



(2) 派遣を終えて

初めてのイギリス、初めてのホームステイ、いろんな期待と不安で胸がいっぱいでした。およそ13時間のフライトを終え、バーミンガム空港からBSDCへのバス移動中、とても緊張していたのを覚えています。しかし、初めて会ったときのスティーブの笑顔が緊張をとき、不安を楽しみへと変えていきました。

イギリスで過ごした2週間を振り返ると、本当にたくさんの思い出ができました。

#ホームステイ

初めてのホームステイがセインズベリー家でよかったと心の底から思います。

3人でホームステイをしたので、私たちのことを“Girls”と呼んでいました。もちろん、日本ではこのように呼ばれることはないのですが、最初は慣れませんでした。イギリスで生活しているんだと強く実感することができました。彼らの家は「豪邸」で、3人それぞれ1部屋ずつ用意されていて、バスルームは3つもありました。家の中では靴を脱いで生活していたので、とても過ごしやすかったです。

週末には私たちの行きたかったダービーにある大きなモールへ連れて行ってくれました。一緒に出かける時、いつもスティーブとドロシーは手を繋いでいて本当に仲がよかったです。

お別れの時間は、とても辛いものでした。スティーブとお別れのハグをしたら、次第に視界がぼやけていきました。

#BSDC

学校のプログラムでは、いろいろな経験ができました。バディーの生徒とはもちろん、プログラムやランチタイム、放課後を通して、たくさんの人と関わ

ることができ、若者たちのあいさつの仕方を教えてもらったり、セルフィーをしました。

彼らはとても社交的で、同じ年や年下に思えないくらい大人っぽい子ばかりで年齢を聞くと、圧倒されてばかりでした。

最終日のカルチャーショーでは、英語バージョンの桃太郎の劇を披露し、きびだんごを振舞いました。たくさんのホストの方が笑ってくださったので嬉しかったです。

ショーのラストには、いつも一緒に行動していた4人でPPAPならぬ「BSDC」をしました。

この派遣には、たくさんの素敵な出会いがありました。

合言葉は“Hiya! Selfie please!”



6 松平高等学校

飯田 大輝

(1) ホストファミリーの紹介

私は若夫婦のネイサンとジュレイトの家庭にホームステイさせていただきました。ホストファザーのネイサンは消防士で料理が上手くて真面目な人でした。また、フットボールがすきで、地元のクラブの試合をテレビでよく観戦をしていました。奥さんのジュレイトはリトアニア出身で、賢く気さくな人でした。ジュレイトは仕事が忙しく、土日も仕事に出ているため、顔を合わせるのはほとんど夜だけでした。ネイサンはビリヤードが上手で、何度か誘ってもらいましたが、全部負けました。夫婦で旅行へ行くのが趣味で冷蔵庫には様々な国で撮られた写真がたくさん貼ってありました。ホストファミリーとの思い出で印象に残っていることは、夕食後の会話です。特に大したことではないのですが、イギリスのこと、リトアニアのこと、日本のこと、話もあい、とても楽しい時

間でした。月曜日の夜はネイサンが仕事のため夕食を一緒に食べることができませんでした。だから、ジュレイトは友人のディアナを誘って夕食を一緒に食べました。ディアナもまた旅行がすきでたくさんの国について話を聞きました。今度の夏休みは2人で一緒にスペインへ旅行へ行くそうです。ジュレイトの仕事が忙しかったため、全員でどこかへ行くことはなかなかできず、ビリヤードくらいしかできませんでしたが、その分たくさん話すことができ、充実していたと思います。2人とも非常に陽気でフレンドリーでまた機会があるならば会いたいと思います。



(2) 派遣を終えて

今回の派遣では英語に限らず、イギリスの文化についてたくさん学ぶことができたと感じます。イギリスで生活することで旅行では見えてこないであろうものを発見することができました。また、親元を離れて暮らすという初めての経験でしたので人間的にも成長できたのではないかと思います。イギリスではたくさんの日本とは違う文化についての発見がありました。だから、イギリスに限らず、世界の国へ行って日本とは異なる文化を体験してみたいと思うようになりました。

7 豊田工業高等学校

熊田 実華

(1) ホストファミリーの紹介

私が滞在したホストファミリーは Anne Brookes さん家です。Anne さんには Martin さんという旦那さんともう独立している娘さんたちがいます。旦那さんは週末にしか家に帰ってこないの、私はほとんどの時間を Anne さんとすごしました。Anne さんは料理がとても上手で私は夜ご飯が毎日とても楽しみでした。正直レストランの料理よりも何倍も美味しかったです。Anne さんは2匹の猫を飼っており。1匹はとても人懐っこくもう1匹はとてもシャイで2匹ともとても可愛い猫ちゃんです。私は毎日夜ご飯を食べ終わったあと Anne さんとリビングに行き猫ちゃんと戯れながら Anne さんとお話しました。Anne さんは海外旅行が趣味なので Anne さんがスペインに行った話や日本に行った話などを写真など

見せてもらいながら聞きました。Anne さんの家にはたくさん本があります中には日本の紹介という本もあり私の知らなかった日本のことを知れました。Anne さんのいつも明るく優しい性格のおかげで私はとても楽しい時間を過ごせました。



(2) 派遣を終えて

朝早く、沢山の夢と少しの不安を抱え親に発した「行ってきます」その後は長い空の旅、イギリスに近づくにつれホストファミリーと仲良くできるだろうか、英語はちゃんと通じるだろうかなどの不安が高まる、そしてイギリスについた。そのままで、おとぎ話のような街並みに私は心を躍らせた。「オシャレ」「レンガ造りいいね！」という周りの声にも私も賛同した。大学につき、ホストファミリーとの対面。ついにその時が来た、緊張の一瞬初めて交わす挨拶「Hello」。挨拶とは不思議なものだ。あれだけの不安が一気に吹き飛び私はいつの間にかホストファミリーと笑顔で会話していた。さて、私がイギリスに着き驚いたものがある。それは道だ。イギリスは平原ばかりだから平坦な道が多いのだろうかと思っていたが、それとは裏腹にジェットコースターのような上り下りの激しい道や急カーブが沢山あった。恐るべしイギリス・・・ あっという間に最終日、今ではすっかり仲良くなったホストファミリーに「See you again」と告げ私は多くの経験と思い出を胸に抱き日本へ帰国した。

8 足助高等学校

澤田 実穂

<ホストファミリー>

今回私は、Sainsbury 家にホームステイさせていただきました。Sainsbury 家は夫・Steve と妻・Dorothy、長男・Joshua の3人家族です。

Steve はとても優しくてお茶目な人で、朝から「Good morning girls!」と挨拶してくれたり、食事中も話題を作ってくれたり話しかけてくれたりとずっと

私たちを気にかけてくれました。さらに料理がとても上手でいつもおいしい料理を作って学校から帰ってくる私たちを待っていてくれました。Dorothyは買い物に行くと必ず「What did you buy today?」と聞いてくれて見せるもの一つ一つに「lovely.」と言ってくれました。



そうしてみんなで買ったものを見せ合ったりする楽しい時間を作ってくれました。Joshuaは家にいる時間よりも外出している時間の方が多くてなかなか話す機会がなかったけれど、家の中で出会うと微笑んで「Hi.」と声をかけてくれました。

Sainsbury家で過ごした2週間は本当に楽しいものでした。彼らの家にホームステイできて良かったです。みんな大好きです。本当にありがとう。

<派遣を終えて>

私は中学3年生の時に中学生海外派遣でイギリスに行かせていただいており、今回の高校生海外派遣は私にとって2回目のイギリスを訪れる機会となりました。

大好きなイギリスに行けることになり、嬉しくて弾む気持ちを持ってイギリスへ向かいました。しかし、いざホストファミリーやバディー、BSCDで出会った人たちと話すとなると黙ってしまい質問されてもYes/Noしか答えられず、自分から積極的に話しかけたり会話を続けるということができませんでした。さらに、派遣団の子たちとばかり話をしていて自分から現地の人たちと話す機会を潰していました。これではいけないと思い、意識を変えました。すると、ホストファミリーやバディーと話しているときに気になったことを質問したり簡単だけれど思ったことを言ったりすることでどんどん会話を続けられるようになり、心の距離を縮めることができたように感じました。

この派遣を通して、積極性の大事さを感じることに、現地の人の温かさに触れることができました。同時に、自分の考え方や視野を広げることもできました。そして、自分に自信が持てるくらいにもっと英語を勉強しようと決めました。この機会に出会った人たちとの縁をこれからも大切にしていきたいです。本当にありがとうございました。



私は、今回が初めてのホームステイでした。Chamberlainさん家は、私を温かく迎え入れてくださりました。Chamberlainさん家は、五人家族でした。静かで優しいホストファザーのAndy、いつも優しく話しかけてくださったホストマザーのMary、別の家で暮らしている長男のKevin、大人しい十八歳の女の子のChloe、いつも元気な五歳の女の子のEmily。そして、犬が四匹いました。最初はとても緊張してなかなか話すことができませんでした。そんな私を見て、緊張しないでいいよと優しく話しかけてくれました。徐々に話せるようになり、学校でしたことや、日本での学校生活などについてたくさん話しました。

三月十九日はホストファミリーとショッピングに行きました。私はそこで土産を買いました。お昼はケンタッキーを食べました。とても楽しい一日でした。

私はホストファミリーにハンカチをプレゼントしました。みんなとても喜んでくれてとてもうれしかったです。また、日本のお菓子もプレゼントしました。最後の日に、ホストファミリーから、ノートとボールペンもらいました。すごくうれしくて一生大切にしようと思いました。

いつも優しく話しかけてくださったAndyさん、毎日おいしいごはんを作ってくくださったMaryさん、いつも優しく話してくれたChloe、いつも元気で笑顔いっぱいだったEmilyが私のホストファミリーでよかったです。またイギリスに行く機会があったらChamberlainさんの家にホームステイをするという約束をしたので、将来この約束を果たすためにもイギリスにもう一度行きたいです。



派遣を終えて私は少し積極的になったと思います。最初のうちは人見知りして、バディーの生徒やホストファミリーと話すことができなかったけど、勇気を出して話をすることができました。たくさん話をして写真を撮り、仲良くなりました。お別れするのがとても寂しく悲しかったです。

今回の派遣で一番印象に残っているのは、ロンドンツアーです。大英博物館やバッキンガム宮殿、キングスクロス駅などさまざまところへ行き、歴史に触れあい、感動や興奮を味わうことができました。その中で一番興奮したのは、ハリーポッターで有名なキングスクロス駅に行ったことです。友達と写真を撮りました。その後、隣にあるハリーポッターショップへ行きました。たくさんのハリーポッターグッズを買いました。ロンドンアイ、ビッグベンも見たときは興奮しました。今回、ロンドンアイは見ただけだったので、次訪れたときは

乗りたいです。夕方に見たビッグベンがとても綺麗でした。

三月二十日に行ったロズリントン森林センターでのサイクリングも印象に残っています。雨の中行われたので、服が泥だらけになりました。いい体験ができたし、いい経験にもなりました。

初めて受けたイギリスの学校の授業は楽しかったけど、もう少し積極的に発言したかったです。どの授業も楽しく受けることができました。とてもいい経験でした。

イギリスで見た景色は日本と全く違い、ほとんどの建物が煉瓦でできており、山が少なく遠くまで見え、とても素晴らしい景色でした。もう一度、イギリスで見た景色が見たいです。

私は今回の派遣でたくさんのものでました。今回の派遣で得た、たくさんのもので今後に生かしていきたいです。



10 豊田北高等学校

西尾 萌花

～ホストファミリーの紹介～

私は今回、Kinnard 家にお世話になりました。Kinnard 家は、父 Andrew、母 Claire、息子 Oliver、娘 Madeleine の 4 人と、Enya、Lily の 2 匹の犬で暮らしていました。

Kinnard 家の方たちはとても親切で、Andrew は毎朝「おはよう～」と挨拶をしてくれ、美味しい朝食を作ってくれました。Claire とは一緒にクッキーを作りました。Oliver は一緒にボードゲームをしてくれました。

Madeleine は学校に行く道を教えてくれました。そして初日、部屋に行くとベッドにお菓子が置いてあり、とても暖かい気持ちになりました。

私たちと本物の家族のように接して下さって、迷子になってしまった時には、とても心配し、私たちを見つけて迎えに来てくれてすごく嬉しかったです。

日本と違うことが多くて、戸惑いもあったけれど Kinnard 家の方たちのおかげで、2 週間安心して過ごすことが出来ました。本当に感謝でいっぱいです。



～派遣を終えて～

私は高校 1 年生の時、アメリカへホームステイをしに行きました。その時私は、日本とは違う文化にとっても驚き、感動しました。それから他の国の文化も体験したいと思うようになり、先生からこの話を聞いた時強く行きたいと思い応募しました。代表になれた時は本当に嬉しかったです。

イギリスへ行って驚いたのは、言ってる事が全然聞き取れないということです。自分の言いたい事はきちんと伝えようと思って少しずつだけれど伝えることが出来たけれど、学校で習う英語とイギリス英語の違いや速さなどによって全然聞き取ることが出来ず、とてもショックを受けました。それでも、親切なホストファミリー、バディー、スタッフの方のおかげで 13 日間いろんな人と会話をしながら過ごすことが出来ました。

13 日間ハプニングもあり、楽しいことだけではなかったけど、写真を見ながら 13 日間全ての日に戻りたいと思えるのは、一緒に行った 15 人の仲間と助け合っただけだからだと思います。みんなバラバラの高校で不安もあったけれど、この 15 人とイギリスに行けて本当に良かったです。



今回の派遣で、私は自分の英語力の未熟さを思い知り、自分と違う環境で勉強している人達に出会ってもっと頑張って英語を勉強したいと思いました。そして、英語を勉強してまたイギリスへ行きたいです。

こんな貴重な機会を用意してくださった市の方々、事前研修で英語を教えてくださいました先生方、引率してくださった 2 人の先生、行くことを許してくれた両親、私を代表にしてくださいました学校の先生、サポートしてくださった現地のの方々、全ての人に感謝でいっぱいです。

本当に最高の 2 週間でした。

11 豊田南高等学校

今吉 彩

Andrew Kinnard

今回私がお世話になったのは、Kinnard Family です。現在は、お父さんの Andrew、お母さんの Claire、息子の Oliver、娘の Madeleine と犬二匹で暮らしています。本当に優しく親切な方々で心から感謝を伝えたいです。

Andy: 毎朝「オハヨー」と声をかけてくれる明るい人です。彼の作るスクランブルエッグは最高です。すごく心配性なので家に帰ることが遅くなると学校の周りまで探しに来てくれます。

Claire:教会で子供たちに先生をしています。ハグが大好きで、何かあるたびに誰かと必ずハグをしていました。彼女のハグには不思議なパワーがあってハグをされると幸せな気持ちになります。

Oliver:ご飯を食べるスピードがすごく早く、なおかつ食べる量もとても多かったです。食卓に並ぶ料理の半分は Oliver の胃袋に消えていきました。私の話も一生懸命理解してくれる優しいお兄ちゃんでした。

Maddy:BSDC でシェフになる勉強をしています。甥たちと遊んでいるときとても楽しそうでした。そして、よく Oliver とじゃれあっていました。こんなに仲のいい兄弟みたことがない！というほどの仲の良さでした。



研修は、日本にいたら体験できなかったティー体験やマウンテンバイクに乗ることや、シェルター作りなどさまざまな価値ある時間を過ごすことが出来ました。BSDC の学生である Olivia が誕生日を迎えたときには一緒にお祝いをしました。「ヤバーイ」と喜んでくれていた Olivia の顔はすごくいい笑顔でした。最終日は、BSDC の学生やホストファミリーとも keep in touch!!!と言葉を交わし笑顔でお別れをしました。



今回の海外派遣で、私は Sainsbury 家にお世話になりました。Sainsbury 家は父の Steve、母の Dorothy、息子の Joshua の 3 人家族です。

父の Steve も母の Dorothy もとても優しく、ホームステイで緊張していた私たちを温かく迎えてくれました。

Sainsbury 家はたくさんの留学生を迎えており、私たちが行く 2 か月前にも韓国の留学生を迎えていたそうです。

ホームステイ 2 日目には 2 人の孫の Michel と Paige が来てくれました。

2 人はとても明るく、おかしなことばかりするので私たちは笑ってばかりでした。

この派遣で特に私が印象に残ったのは、Dorothy と Steve とした会話です。

Dorothy は買い物がとても好きで私たちは買い物をした日にはいつも Dorothy と見せ合いつこし、おしゃれなどについてキッチンで女子会を開きました。Steve とは日本での生活や、恋愛の話などをしました。

本当にとっても楽しい時間を過ごすことができました。

私はこの派遣を一生忘れません。



この海外派遣を通して、私はたくさんのことを学ぶことができました。

私はある目標を立てて今回の派遣に臨みました。

それは出来るだけたくさんの人と英語でコミュニケーションを行うということです。

しかし、私は人見知りです。初対面の人と話すのが苦手なので話せるかどうかとても心配でした。

そんな不安を抱えたまま、海外派遣当日を迎えました。

イギリス行きの飛行機の中で私は外国人の隣に座りました。早速英語を使う

チャンスだと思うと同時に私は自分の英語で通じるのかとても不安でした。

ですが、1回話してみるととても話しやすく私たちはいろいろなことを話しました。

その人はフランス人だったのでフランス語を少し教えてもらいました。代わりに「ありがとう」「おはよう」などの簡単な日本語を教えてあげました。

向こうの学校については私たちのサポートをしてくれるバディやスタッフの人と顔合わせをしました。バディの人たちはとても優しく、私たちのためにゆっくり話してくれたりジェスチャーを使って説明してくれたり ととても親切にしてくれました。

ホストファミリーの人にはたくさん迷惑をかけてしまったと思います。それでも最後まで、私たちが言いたいことを一生懸命理解してくれようとしたり、面白い話をして私たちを笑わせたりしてくれました。

最後のカルチャーショーの日にはみんなと別れたくなくて涙が止まりませんでした。

この海外派遣は私にとって一生忘れられない経験になったと思います。

この素晴らしい経験をさせてくれた市の方々、サポートしてくれたBSDCの人、困った時に助けてくれた先生方、私たちを信じてイギリスにいかせてくれた両親、心配してくれた友人、支えてくれた仲間。すべての人に感謝をしたいと思います。



13 豊野高等学校

本田 友里

今回、私は Washbrook 家にお世話になりました。家族構成は、お父さんの Jim、お母さんの Louise、お姉さんの Megan、弟の Harry、犬の Charlie の4人と1匹の家族です。

家族全員が歌うのが好きで家の中で歌うのはもちろん、食事に行ったときに店にかかっている曲に合わせて歌ってました。家族の仲がよく、賑やかな家庭で楽しかったです。

ぜひ、もう一度この家族に会いに行きたいです。



派遣を終えて

私はイギリスに行く前は、イギリス人に対してドライでクールな印象をもっていました。

しかし、イギリスにきてその印象が変わりました。家の中では、歌をうたったり、踊ったりしてにぎやかでした。私がレストランで食事をしたときに、お店の人がフレンドリーに対応してくれました。明るい方が多かったです。

私は、バスでの出来事が印象に残ってます。日本人はたいていの人がバスを降りるときに、お礼の言葉を言わないけど、イギリス人は多くの人が thank you と言っていました。

また、バスの運転手とも楽しそうに会話をしていました。

私にとって、イギリス人は困っていたら助けてくれる優しくて明るい国民だと思いました。



14 杜若高等学校

尾藤 良哉

(1) 自分が滞在したホストファミリーの紹介

僕が滞在したホストファミリーの名前は Monica、60 歳のお婆さんでした。彼女は運動することが大好きのようにです。ランニングやスイミングそしてジムへよく行くと言っていました。本も好きなようでお互い知っている作品があり、

共感できました。最初の日曜、大学のまわりを案内してくれました。バス停や乗るバスについても教えてくれる優しい方でした。二度目の日曜、僕らの頼みで大きなショッピングモールへと連れてってくれました。その時にお土産のお返しにとプレゼントをしてもらいました。本当に感謝しています。

15日の火曜に味噌汁を作って食べてもらいました。彼女は lovely と言ってくれました。錠剤を飲んでいたので、後で食べると言っていたのに、すぐに食べてくれました。嬉しかったです。最後の日にはわざわざ箸を使ってご飯を食べていました。多くのところから優しさを感じました。僕の初めてのホストが Monica さんで良かったです。



(2) 派遣を終えて

僕の派遣の目標はイギリスの人と多く会話することでしたが、それは達成できませんでした。僕の英語が不十分で、英語にも慣れていなかったためだと思います。英語を使うことを恐れていました。一番の心残りです。しかしこの派遣は僕の中ですごく良い機会となりました。より英語を学びたいとさせる気持ちだけでなく、英語が伝わる喜びを感じました。僕は日本料理紹介の担当で、味噌汁の知られてないことについて紹介しました。すごく緊張しましたが、自分の意図したところで笑ってくれたのをよく覚えています。その後、well done といろんな人に言われて嬉しかったです。手伝ってくれた二人の友達にも感謝しています。

英語を勉強してからもう一度 BSDC やホストのところへ行きたいです。

私が今回のホームステイでお世話になったのは、Shah 家です。おばあさんの Aqeeda さんと息子の Mansoor さんの二人暮らしです。2人はパキスタンの方で、Aqeeda さんは45年前にイギリスに来られたそうです。最初はイギリスが嫌だったけど、今では大好きだと言います。Mansoor さんはごく幼いときだったそうです。パキスタンの習慣として、自分のことは自分でやるというのがこの家の決まりでしたが、Aqeeda さんはいつでも私のことを温かい目で見守っていて、私が学校から帰ると、いつも「何か食べたい？」や「学校はどうだった？」と聞いてくれました。私も一日の緊張がとけ、その日のことをたくさん話すことができました。初日に私が少し寂しいということ言うと「ここはあなたの家だから何も心配することはない、悲しくなったらいつでも話に来なさい」と言われ、もう怖くはありませんでした。また、彼女はとても料理が上手で、私が苦手な辛いものと甘いものを避けて色々な料理を作ってくれました。どれも美味しかったです。Mansoor さんもとても親切で陽気な方でした。初日からジョークを言って私を笑わせてくれたり、イギリスの街や人々について教えてもらいました。朝は私が起きる前に出かけてしまいましたが、夜はよく一緒にテレビを観て楽しみました。初めてのホームステイで不安しかなかった私を励まし、家族として受け入れてくれた Shah 家に心から感謝しています。



“なんで私が1人なの？” “何を話せばいいの？” “相手の話を聞き取れる？”
—そんな思いで臨んだホストファミリーとの対面。最初は簡単な挨拶をするのが精一杯でしたが、Mansoor さんが私のことについていくらか質問してくれたおかげで簡単な会話をすることができました。家では、ホストファミリーは基本的に静かな方だったので、自分から何か些細なことでもいいから話しかけることでコミュニケーションを取っていました。一言話すのにも緊張していましたが、思い切って間違えることを気にせずと言いたいことを伝えようと決心しました。すると、不思議なことに言葉はすらすら出てくるもので、日を重ねる毎

に積極的になれました。同じように、BSDC のバディ生徒とも 2 人で話す機会がたくさんありました。自分の趣味や訪れた場所の感想などを話し合うのはいつしか友達と日本語で話すより楽しいと思うようになりました。更に、何人かの生徒が私の英語が上手だと褒めてくれました。私の話を理解してもらえたことが何よりも嬉しかったです。元々発音や文法が不安だったので、自分に自信を持つことにも繋がりました。

今回私たちはトヨタの工場、ロズリントンフォレストリーセンター、セントジョージズパークなど、多くのイギリスの有名な建物を訪問しました。中でも印象に残ったのは昔の子供に関する博物館です。見たことのないおもちゃを間近で見学するのは面白かったですが、産業革命時代の児童労働の展示は恐ろしく感じました。しかし、同時にこのような歴史上の事実を知ることがいかに大切かよく分かりました。ロンドン観光で行った大英博物館は、想像以上の規模の大きさに驚きました。各展示物の説明を機械で聞き、それぞれの良さが分かりました。その他にもバッキンガム宮殿、ビッグベンといったイギリスの重要な建物も見ました。一日中歩いて疲れましたが、とても勉強になりました。

多くの経験をさせていただき、やっとイギリスでの生活に馴染んできたと思えば、もう帰国です。本当にあっという間でした。ついこの前は早く日本に帰りたいなんて思っていたのに、今では帰るのが嫌でホストファミリーとお別れしなければならぬのが辛いくらいです。

私にとってこの 2 週間はかけがえのないものとなりました。一生忘れません。また、今回の派遣に参加して、文化や習慣、教育制度、マナーの違いなど、実際にイギリスを訪れたからこそ学べたことがたくさんあったと感じました。毎日が新しい発見の連続でした。こんなにも素晴らしい体験をさせていただき、本当にありがとうございました。



(1) My host family



今回の派遣でお世話になった Fitzpatrick, Roome 家です。家族構成は父 Paul, 母 Fay と養子の Shernia(8 歳), Rylee(6 歳)、家から少し離れたところに住む Liam, Tom, Dan と、犬の Charlie です。Liam は二日目に Christening party の準備をするために手伝いに来ましたが、忙しくてほとんど話す機会はありませんでした。Tom と Dan は Paul と同じトヨタ自動車に勤めているそうです。イギリスに着いた日の夜、車で家に向かう間で話が盛り上がり、話題が尽きることがなかったです。すぐにこの家族が大好きになりました。早く帰ってくると子供たちと play room で cartoon を見たり、折り紙をしたり、いろ

いろな遊びをして楽しみました。彼らは 19 時に bed time だったので、毎晩夜ご飯の後にソファーに座ってテレビを見ながら Fay と Paul とその日にあったことや、次の日のこと、日本やイギリスの食べ物、学校、イベントなど様々なことについて話すのが日課でした。毎日たくさん話せてとっても楽しかったし、充実していました。Fay は以前シェフだったので、とても料理がおいしく、毎日お腹一杯になるまで食べました。彼女が作るディナーが毎日楽しみで、できるだけ早めに家に帰るようにしていたくらい、大好きでした。Paul はとても面白くて、いつもジョークを言って私を笑わせてくれました。一緒にいるだけで笑顔になれる、素敵な家庭で、離れるのが辛かったです。こんな素晴らしい家族と一緒に過ごせただけで、有り難いです。私はこの家族に受け入れてもらえて本当に感謝しています。私の大好きな自慢のホストファミリーです。最高の二週間をありがとうございました。

(2) 派遣を終えて

イギリスでは 16 歳から大学に通えるので、年齢を聞くと同い年ということも多かったのですが、同じ 17 歳とは思えないほど大人びていました。フレンドリーで、優しく、何よりも一人ひとりが自立していると感じました。16 歳の時点ですでにそれぞれが自分の専門分野に絞って勉強している段階にいるということが、彼らが大人びて見えるひとつの理由なのだろうと思います。ホストファミリー、バディ、BSDC の生徒や先生たちと出会えて、本当に幸せです。二週間という限られた時間のなかでしたが、毎日が新しい発見の連続で、とても充実

していました。もう会えなくなると思うと涙が止まりませんが、思い残すことは一つありません。この経験は一生の宝物だし、これから自分の将来を切り開いていく上での大きな糧となると思っています。このような機会を用意していただき、素晴らしい体験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。また絶対にイギリスに行きたいと心から思える研修になりました。

引率教諭 豊田高等学校

村瀬義彦

派遣を終えて

① はじめに

今回のダービーシャー派遣に向けた準備と現地でのサポート、そして帰国後に報告の機会を与えて頂いた豊田市職員の方々やBSDCのスタッフの皆様方に感謝を申し上げます。また、快く送り出して頂いた豊田高校の先生方、参加の後押しをしてくれた私の妻と子ども達にも感謝をしなくてはなりません。

私がこの派遣事業に興味を持ったきっかけは第2回に参加した本校の生徒でした。この生徒は私が担任を受け持っていたのですが、事前研修に参加し始めてから目に見えて意識が変わり、3月の派遣から戻った際には「大変に濃密な2週間」「人生が変わる経験になった」と目を輝かせて語っておりました。これほどの経験になるダービーシャー派遣とは一体どのようなものなのか。このタイミングに引率のお話を頂けたことは本当にありがたいことでした。

② 事前研修

10月の参加生徒との顔合わせから派遣に向けた準備がスタートしました。事前研修には時間の許す限り参加させてもらいましたが、研修を通して16名の生徒を把握することと、ここで何を学習しているのかを知っておくことは非常に有意義でした。例えば、現地に入ってからイギリスの地理について学ぶ機会がありましたが、これは研修で扱った内容でもありました。公共交通機関の利用の仕方やイギリスならではの英語表現の紹介など、どれも現地でのプログラムを意識したものであり、生徒にとって大いに役立つものであったと思います。またイギリス人のデイビット先生、カレン先生は日本人への指導経験が豊富で、英語教育に携わる身として、非常に興味深かったです。

③ 現地にて

BSDCでは座学の授業と組み合わせてアフタヌーンティーなど各種の体験とトヨタ工場など各地の見学があります。どのプログラムでもバディと呼ばれるBSDCの学生が「献身的」と言ってよいほど手助けをしてくれました。2週間足らずの滞在期間に2人のバディの誕生日が重なっており、生徒達がお祝いのメッセージを届ける姿が印象的でした。バディの貢献は大変に大きく、とりわけカルチャーショーに向けては買い物に付き合ってもらい、司会の原稿を添削してもらするなど多大な労力と時間を割いてもらえました。彼らからすればこれら

は” My pleasure” だそうで、イギリス人の温かみに触れた気がしました。

多様なプログラムの中で最も印象に残ったのはロズリントン森林センターでの野外実習です。あいにくの雨天の中、マウンテンバイクの乗車とアウトドアの体験をしましたが、これらが単なるレジャーではなく消防や軍隊などのパブリックサービスを意識したものであることを興味深く感じます。野外での食事の例としてレトルト食品が紹介されましたが、日本では一般家庭で食べられている旨を伝えたら驚かれました。3月の寒空の中で体力的にはきつい内容でしたが、継続してほしいプログラムに思います。

滞在の最終夜に修了式とカルチャーショーを実施しました。おそらく、次年度以降も派遣団を悩ますのはこの日になるはず。「桃太郎の劇をやる」「団子を作る」ということは決まっていたが、上演の舞台がどのような場所で、修了式のあとにどのようなタイミングで実施ができるのかといった細かな内容は直前まで決まっておらず、当日になって動きを2転3転することとなりました。最終的に、団子はフェアウエルパーティー（立食会）に出ず、修了式→劇の上演→一人ずつ滞在の感想を述べる→松藤先生による派遣団代表の挨拶で締めくくる、の形になりました。滞在の感想については、代表者だけ発表する、希望する数名がする、という意見もありましたが全員にやらせてよかったと思います。生徒にとっては間違いなく貴重な経験となっていますし、またホストファミリーを始めとした参観に見えている方々にとっても意義深いものであるように感じました。また、市役所から預かったカルチャーショー参加者への粗品は劇中の鬼が抱えている宝箱の中に入れておき、劇の最後に桃太郎一行から参加者に配る形を取りました（松藤先生のアイデアです）。

④ 帰国とこれから

最終夜のフェアウエルパーティーと帰国日の早朝では多くの生徒がホストファミリーとの別れを惜しんでいる姿を見かけました。私たちがお世話になった Mr Noel, Ms Jackie からはお土産まで頂き、わずかな期間ながら誠意溢れる応対をして頂きました。この派遣に関わった多くの人間の優しさに触れたことが、何よりの財産となると感じます。ダービーシャーへの派遣はこの3回で延べ生徒48名+引率教諭6名が参加したことになりますが、この派遣事業がこれからも続き、参加者が増えていくことは大きな力になるはず。私を含め、参加者が自身の人生を変えるきっかけとし、この体験を周りに伝えていくことでダービーシャー派遣事業がますます意義の深いものになっていくことを確信しております。

最後に、派遣を通して関わらせてもらった生徒諸君、相棒を務めてくれた松藤先生、本当にありがとうございました。今後とも、次年度への申し送りなどの折にはよろしく願います。

英語科教諭として派遣をふりかえって

1 全体をふりかえって

第3回ダービーシャー高校生派遣を無事に終わられたことに、本当に安堵しています。今派遣は豊田市役所の方が現地にいるということで、我々引率教員と現地職員ですべての対応をする形となっていました。現地スタッフは、派遣期間中本当によく生徒のことを考えて動いてくれましたし、最終日のカルチャーショーに向けた準備でも、生徒たちの要望をできる限り叶えようと尽力してくださいました。また豊田市役所の嶋田さん、日本旅行の都築さんも24時間体制でサポートしてくださり、このような方々の支えがあったからこそ、全員が無事に帰国できたのだと思います。カルチャーショーでの生徒たちのスピーチと流した涙が、この派遣が素晴らしい思い出となったことを確信させてくれました。関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

2 現地での英語講座について

英国の文化や、家庭料理の紹介などは、帰ってからのホストファミリーとの話のネタにもなりますし、教員の立場から見ると、授業の内容・展開共にとてもよかったと思います。しかし、生徒の反応はいまいちでした。

まず原因として考えられるのは、日本人の生徒4人に対して、BSDCのバディが1人というグループで英語で会話する活動が多かったために、どうしても日本語に頼ってしまいがちでした。そのためバディが会話に置いてけぼりになってしまう場面も多々見られました。与えられたTask自体は、日本語で取り組んでしまえばごく簡単なものだったので、それが退屈だと思ってしまった原因の一つではないかと思います。しかし、意識の高い生徒は「English, please!」と他の生徒に声をかけ、積極的にバディたちとも話そうとしていました。すべてを英語で行えばもっとよい研修になったと思うので、次回以降は事前研修等の動機付けが大切だと感じました。

また、2日目の丸1日ずっと講義というのは体力的にきつかったのだと思います。時差ボケや慣れない食事、環境的にもまだまだ不安な状態で、集中力が1日の講義に耐えられなかった面は少なからずあると思うので、半日の講義を3日間で行うというような工夫ができるとういのではないかと考えました。

可能であるならば、せっかく海外で講義を受けるので、日本人同士で会話するのではなく、クリエイティブメディアワークショップの時のように、現地の生徒と1対1で力を合わせて課題解決を迫られるような機会が増えると、日本語を使う余地がなく、有意義な講義になると感じました。

3 英語について

BSDC 職員の方や、ホストファミリーは非常にわかりやすいイントネーション

で話してくれたので、生徒たちはリスニングにはそんなに困っていなかったと思います。しかし、この地方の発音なのか、ホストファミリーとの会話でしばしば bus が boss、park が pork と聞こえて戸惑うことがありました。(散歩中に急にホストファザーに「休みの日には近所の子供たちがこの豚肉で遊ぶんだよ。」と言われ、「えっ！豚肉で？」と聞き返したのは、いいジョークのネタになりそうです。)

英語感想文

Reflections on experiences in Derbyshire, written by each student in
English

Title; what do you want to be??

First I should say thank you to my host family. Thanks to my host that I was able to spend wonderful days in UK. They supported me a lot. And they talked me a lot so that I could have chance to improve my English.

I want to write about one interesting thing which I found during this trip.

It was that the all students who helped our class have a future dream.

When we work together they all ask me "What do you want to be in the future?"

I have my dream so I could answer but I felt really weird. I think "weird" is not the best word to describe my feeling but let me use this word. Because in Japan, we don't ask people about their future dream often. After I answered, I asked them same question. They could answered me. One student answered "I want to be designer" and other student answered "I want to be chef." I thought this is very interesting because in Japan not many young people could answer to this question. I found that professional learning can make people to have their dream.



Homestay in England

I have two things to tell you about my homestay in England. First thing is my reunion. It is the most pleasant thing in my life. Shannon and I met 4 years ago in Japan and she did a homestay in my house. Before she goes back to the U.K. we have made a promise to meet again. I had wanted to see her again for 4 years. Both of us believed that we could meet again. Thanks to Toyota city and this program, I was able to not only see her again in England but do a homestay in her house. I never thought that I would stay at Shannon's. My host-family was so kind and cheerful that I didn't miss my home, Japan at all. They always made me laugh. At our parting I wasn't able to stop crying because my host-family said "We are you're the second family. We love you a lot." to me. I was moved by their last words before farewell. Second, the routine that I have experienced in England is open-eyed astonishment. People eat an amount of potatoes that you cannot believe. There are chips on the dish at every meal time so I'm tired of potatoes. I had a dinner at about 6:00 pm every day. It is earlier than my house's. In addition surprisingly Shannon and Tom (Shannon is 17 and Tom is 16 years old.) goes to bed before 8:30 pm and there are no desks for study. I never saw them studying. I wished we Japanese students do not have homework like that. In England it is difficult for me to express my emotion properly to my host-family. I think you should study adjective of in English before trip abroad. There is a big difference depending on how much you know it. Let me tell you just one more thing. I didn't miss my home but one thing I really miss is just Japanese food. Nothing is more delicious than Japanese food in the world.



KIMURA TATSUYA

My heart was full of great expectations because this dispatch was my first time to visit foreign country.

When life begins in the U.K. I was perplexed by the gap between image and reality. So, for the first two days I was unable to get used to life in the U.K and wanted to return to Japan many times.

However, I have forgotten the inconvenience in my life by talking a lot with my host family and buddies, and I was becoming feel a lot of fun of talking.

I had a very exciting time for two weeks. I was deeply aware that our life style and culture are so different.

I will utilize information acquired from this dispatch; One day I will go back to the U.K.



KODERA ARISA

It was my first time in UK. I think 2 week is quick but I really enjoyed. At first I learned about UK cultures. In the UK was many cultures. I'll talk about Easter. Easter festival is the most important festival in Christianity, commemorating the resurrection of Jesus Christ died on the cross on the third day. Special worshipers are held in many churches. In England I get chocolate in the form of eggs. Egg shaped chocolate can be eaten as a symbol of new life and faith. Two weeks in the UK. I could know about many things. I want to make use of what I learned in the UK. I also got another my family and I could made many friends. I hope to keep in touch with everyone. Thank you for giving me such a good opportunity.

YAMAMOTO ARISA

Memories

This is my first time homestay. So I was very nervous. However, I had a great time in UK. My best memories are the London tour. London is a very beautiful city and people are kind. We visited many sightseeing spots. So I was able to take my favorite photos. Those photos are my treasure. I will never forget these memories. I want to visit there again.



IIDA DAIKI

My best memory in UK is having conversations with British people. I really enjoyed talking with my host family and my buddies. I have learned a lot from this experience like cultural differences especially on food and language. Not to mention my improvement in English skill, I have learned more than I have expected.

This was my first trip abroad. I felt nervous when I arrived. However, I gradually felt relaxed having good buddies and my host family around me. I was able to overcome my fear. These two weeks are filled with precious and fruitful experiences that I wasn't able to experience within Japan. I will never forget my study trip to U.K.

KUMADA MIKA

Memories of UK

I did plenty of experience in the United Kingdom. In perhaps the most memorable is a cultural show. Our peaches tried to play David. Without the time or the screenplay, directing, costumes, all they had to do, so it was very hard. But I worked my bamboo flute playing, and success in the production is good. Host family thought it was hard because I said I was worried.

SAWADA MIHO

< I love U.K. >

Thank you for 2 weeks. This was my second times to visit the U.K. This time I was able to experience different things from the time I went there when I was a junior high school student. And I learned a lot of things there.

It is my best memories to have fun all the time to spend with my host family as well as seeing Japanese students, buddies, and BSDC students at school, taking English classes, and doing outdoor activities. I had a wonderful time.

I am really happy to meet my host family, buddies, Ann, Stephanie, other BSDC students, and everyone in Japanese exchange students. Also, I am really happy that I could go to the U.K. with my friend from nursery school.

I am grateful to the people who let me go to the U.K. Thank you very much. I could make many memories. I will never forget them. I love everyone I met. I will definitely come back



First time

This was my first time traveling abroad and also first time to visit to the U.K. I am glad that I was able to see many things here. For example, British food, town streets and so on.

I took Mr. Sam's class for the first time on March 13, 2017. I was very nervous but his class was fun so I was able to enjoy taking his class. I can't actively speak. I regret it. But that became a very good experience.

I went to London on March 18, 2017. I saw many things here. For example, London Eye, Big Ben, King's Cross station and so on. I was very happy when I went to the King's Cross station because I like Harry Potter. I took photos with my friend here. I went to the Harry Potter's shop which is adjacent to the No. 9 after that. I bought many Harry Potter's GOODS. I was very happy when I bought those. I want to go there again.

I went shopping with my host family on March 19, 2017. I bought souvenirs. I ate KFC with host family here.

I went cycling on March 20, 2017. That day unfortunately looked like it was going to rain so I was covered with mud. That was very tough. I was able to have a good experience.

That left an impression on me.

I made precious memories there. For example, took many photos with BSDC's students, saw many things, to talk with many British people and so on. I will never forget that memory and also never forget spend time there.



I'm going to miss talking with my host family and BSDC's students. I wanted to stay England a little longer. I want to go to England again.

I got a lot of experience. I will treasure this experience from now on.



NISHIO MOEKA

~British People~

In Britain, since lots of similar buildings stood side by side in the town, I often got lost near BSDC. When I got lost for the first time, I was incredibly insecure. Then I asked some local people the ways which I wanted to know, they were so kind as to tell me it. Some people even took me to places where I wanted to go. Their kindness enabled me to do what I planned.

In BSDC, I spent much time with our buddies. At first, I was so nervous that I couldn't talk with them. But they always cared about me and talked to me gently. So I was able to get along with them. In addition, they always helped me during English lessons in BSDC. At last day, I was so sad to part with them. After coming back to Japan, I really hoped to stay in touch with them. If I were an opposing position, I couldn't do likewise as buddies.

I felt that British people are amazingly kind and friendly. It was nice meeting them. Thanks to British people, I was able to have a peaceful time and make great memories.



IMAYOSHI AYA

THE PEOPLE WHO I WANT TO SAY THANK YOU

I had a really great time in U.K. I can't describe how wonderful days were. But one thing's certain. The days in U.K. were AWESOME!!

I'd like to say thank you to my sweet host family, my lovely buddies of BSDC, my pretty friends in U.K., my cool teachers, my nice Japanese comrade. I can't thank you enough. I remember the days as if it were yesterday. Thank you for everything. Thank you everyone. Thank you U.K.



TATEO KAORI

My best memories in U.K.

This was my first time in the U.K. so I was very nervous before I came here. I have been to abroad before but I couldn't do my best. So before I go to U.K. I make my goal. My goal is "Communication in English with many people."

Because I am a little shy I thought that I can't do it. But, I tried to do my best.

In the airplane I sat next to a foreigner so I tried to talk to him.

He was so kind we talk a lot of things. About our countries, jobs, school. He went Japan on business but he said that in the next time he want to go to Japan on sightseeing.

So I told him many beautiful place in Japan.

In return he told me some interesting place in France.

At last I teach him some easy Japanese words likes "arigatou", "ohayou".
I realized that English is so important once again.
At school I tried to talk to teachers and buddies.
They talk to me in a easy and slowly English.
I was very happy in your kindness.
At house, my host family Steve, Dorothy, Joshua. I will never forget about them.
They are my second family.
They making us fell at home. I never forget about our conversation.
We talked about many things. About school, past, love.
After we shopped we line up on the table and showed each other.
It was so fun. I love that time.
At first night we played a card with Steve, Dorothy, and their grandchildren, Michel and Paige. We played until late at night.
Last day we did play a "Peach boy". We practice all day.
At night I got nervous at the performance but it was fun.
I will never forget this experience.
If I have a next chance I want to come back.
Thanks to everyone I had a good time in U.K.
I want to say thank you to teachers, buddies, host families, parents, friends.



HONDA YURI

British people

This was my first time to visit U.K. so I was nervous but thanks for all the people I met in the U.K. kindness, I enjoyed staying U.K.
The most impressive thing was the friendliness.
In Japan, people do not kiss or hug much even with families or friends. So I was surprised to see you kissing and hugging often.
It is a good memory.
I will study English hard and I want to come back U.K.



BITO RYOYA

SUPREME

I had a great time in the U.K. Everything I saw was new to me and it made each day bright. I met many people and experienced many farewells. Everything will remain in my memory forever. When I visit the U.K. again, I want to go and see BSDC member and host family. I knew the warmth and kindness of British people. When I said "Hi, ya", most people replied with smile. I was really glad only by that. I'll never ever forget this experience and everyone. Thanks for supporting us. Thank you very much!



My precious days

This is my first time to visit the U.K. So I worried about homestay at first. But when I told my host-family about that, they said "You don't have to worry about staying. Because you are my family. If you feel sad, come here and talk to me." At the moment, my anxiety was disappeared by that words. All of programs at the BSDC are a little tire for me but I could relax at their home. I was very glad to stay at Mrs. Shah's home. It was really fun for me to talk with my host-family and many English people. I think the U.K's people are very kind and cheerful. Because of them, I was able to enjoy all days. I don't want to say "Good bye" to them and the U.K.

Also I learned a lot of U.K's cultures, histories, manners, education and personality. I discovered many things everyday. I often surprised at big difference between Japan and the U.K. It was a very precious experience.

I sincerely appreciate everyone for prepared such a great programs. I hope to visit the U.K. And I'll never forget these memories forever. Thank you very much!



Once in a lifetime experience



I can't believe how fast time flies when it comes to the moments like these. How lucky am I to have something that makes saying goodbye so hard. I remember everything like it was only yesterday. Going to college, having lunch with buddies, participating in activities, visiting cool places, spending lovely time with my host family. It was truly wonderful and I liked everything about the U.K.; the people, the food, its culture, even the weather. I interacted with lots of people, discovered so many things and tried bunch of new foods throughout my stay and I will cherish these memories forever. My host family was one of the most generous people I know. I remember being nervous on the first day but then the moment we started talking, I immediately forgot all about it and felt at ease. I had such a great time interacting with five lovely buddies and awesome friends that I made during this trip. I'm also very glad that Anne and Stephany were with us the whole time. They were always there to look after us and I know that without their help, we couldn't have survived a day. This experience was absolutely incredible and I am truly happy that I was able to be part of this program. It wouldn't have been the same without them. I miss them all but even though we're far apart, they will always be in my heart.

My precious time in U.K.

First of all, I have to express my sincerely appreciate to all of the people whom I relate to in the 3rd delegation from Toyota city to Derbyshire. I especially would like to say thank you to Ms Ann, who take care of us during 2 weeks, and Mr Noel, Ms Jackie, who were my host family and gave me sincere treatment.

There are 2 impressive things I had in U.K.

First one is a professionalism of BSDC staff.

While we, the delegation member stay in U.K., they treated us well for our comfortable. One day, one of my students left some items in their house. Ms Ann delivered a taxi, and my student were able to pick up the items. This is only an example, the staff members helped us in lots of scenes. I heard "that's why we are here" "this is our job" every time. I felt the pride of BSDC staff and professionalism.

2nd one is a kindness and affection.

Mr Noel and Ms Jackie, they were my host family. That was my first experience in home stay, and now I really feel I am lucky as they were my host. When I arrived at their house, Mr Noel promised me to do his best for us as a host family. He, and they kept break their promise. I enjoyed every meal (that were full of love!), going driving, watching movies... etc

I never forget the time when we shared our pictures and talked about our family. They showed me many photos since they got married. I felt these photos were quite similar to photos that my parents had. My parents have taken many photos to record the history of their family as well. I felt, and knew there was no difference of Japanese, English people. Every one loves his or her family. Every parents love his or her child. Every family has own history.

There are more than 9000 km distance, between Japan and U.K.. It is not easy to have any chances to see people again whom I met in the 2 weeks. However, life has uncountable possibilities. I never forget this memory, and people whom I met.

Finally, I would like to say thank you very much that I were able to have such a precious experience. I am proud to be a member of 3rd delegation from Toyota city to Derbyshire.

Tomohiro Matsufuji

First of all, let me express my heart felt appreciation to all of you involved in this study tour for letting us have such a great opportunity and for all of your support. We had faced some accidents which had never happened in the last couple of this tour, however all staffs responded fast enough and we complete all schedules with no problems.

The most impressive thing I found was that everyone in Burton have pride as citizens. They love their hometown, and also they have a lot of knowledge — about the history, culture, dialect, specialties, population, and so on. How many Japanese students could answer if they were asked by foreigners? It was good opportunity for our students to rediscover the fact that they don't know much about their city. I hope them to know more about Toyota city, and contribute to its prosperity in the future.

豊田市・ダービーシャー姉妹都市交流資料

- 1 姉妹都市名 イギリス ダービーシャー3地域
(ダービーシャー県、ダービー特別市、南ダービーシャー市)
- 2 提携年月日 平成10年(1998年)11月16日
- 3 提携目的 両国民が真の友情を育むことを念願し、互いに協力し合い、融和を促し、相互の文化理解を深めることを目的とする。

4 中学生交換派遣事業

年	学生	団長	副団長	引率教諭	計
平成13年(2001年)	20	1	1	1	23
平成14年(2002年)	20	1	1	1	23
平成15年(2003年)	20	1	1	1	23
平成16年(2004年)	20	1	1	1	23
平成17年(2005年)	26	1	1	1	29
平成18年(2006年)	26	1	1	1	29
平成19年(2007年)	26	1	1	1	29
平成20年(2008年)	26	1	1	1	29
平成21年(2009年)	26	1	1	1	29
平成22年(2010年)	26	1	1	1	29
平成23年(2011年)	27	1	1	1	30
平成24年(2012年)	27	1	1	1	30
平成25年(2013年)	27	1	1	1	30
平成26年(2014年)	27	1	1	1	30
平成27年(2015年)	27	1	1	1	30
平成28年(2016年)	27	1	1	1	29
計	398	16	16	16	445

5 訪問団の交流

	年	内 容
ダービーシャー → 豊田市	平成 11 年 (1999 年)	ダービーシャー青少年吹奏楽団 63 人が来豊市内各所で演奏を行う。また 2 月 17 日には、妹都市提携記念碑除幕式を行う。
豊田市→ ダービーシャー	平成 13 年 (2001 年)	第 1 回ダービーシャー県等親善訪問 (25 名) 平成 13 年 6 月に完成する豊田スタジアムに因んで、サッカー関係者が姉妹都市を親善訪問。現地チームとの親善試合、英国プレミアリーグ地元チームの試合観戦等を通して交流を行う。
豊田市→ ダービーシャー	平成 14 年 (2002 年)	第 2 回ダービーシャー県等豊田市民使節団訪問 (22 名) 現地アマチュアカメラマンとの交流を通じて、写真撮影を行う。帰国後は、松坂屋 T-FACE8 階サンシャインホールでの写真展を始め、市内各交流館を循環し写真展を行ない、市民にダービーシャー県等を紹介する。
豊田市→ ダービーシャー	平成 15 年 (2003 年)	第 3 回ダービーシャー県等豊田市民使節団訪問 (23 名) ガーデニングをテーマに、ダービーシャー県等を親善訪問。個人庭園や公共施設の花飾りを視察し、豊田市のまちづくりに活かす。
豊田市→ ダービーシャー	平成 16 年 (2004 年)	豊田文化使節団 (日本文化を紹介する伝統芸能 (邦楽・民謡・三曲等) による演奏集団 (38 名)) を結成、演奏会やワークショップ等を通じて姉妹都市との市民レベルの交流を深め、文化による国際親善に寄与する。あわせて、豊田市における文化レベルアップを図り、2005 年「愛・地球博」を広くアピールする。
ダービーシャー → 豊田市	平成 17 年 (2005 年)	ダービーシャー青少年ジャズオーケストラ 30 人が来豊。市内各所で演奏を行う。また万博英国ナショナルデーの 4 月 22 日には、万博会場にて公演を行う。
ダービーシャー → 豊田市	平成 20 年 (2008 年)	姉妹都市提携 10 周年を記念してダービーシャー県からのアーティスト (コンテンポラリー・ダンサー) 及び青少年合唱団 (27 名) を受入。

豊田市→ ダービーシャー	平成 20 年 (2008 年)	姉妹都市提携 10 周年を記念して豊田市からアーティスト (三味線演奏者)、ジュニアオーケストラ (42 名) 及び市民文化使節団 (37 名) を派遣。姉妹都市提携 10 周年を記念して鈴木市長がダービーシャー県等を訪問。
豊田市→ ダービーシャー	平成 25 年 (2013 年)	豊田市少年少女合唱団の派遣 (56 名)、豊田市ダービーシャー公式訪問団の派遣 (10 名)、 ダービーシャーフード&ドリンクフェスティバル出展のため豊田市職員等を派遣。
ダービーシャー →豊田市	平成 25 年 (2013 年)	「とよた産業フェスタ」へのダービーシャー紹介コーナーの出展とダービーシャーからの参加団 (6 名) 受入。また、ダービーシャー青少年吹奏楽団 (52 名)、ダービーシャー公式訪問団 (9 名) を受入。
豊田市→ ダービーシャー	平成 26 年 (2014 年)	ダービーシャーフード&ドリンクフェスティバル出展のため豊田市職員等を派遣。

6 その他

	年	内 容
豊田市→ ダービーシャー	平成 13 年 (2001 年)	鈴木市長ダービーシャー県等親善訪問 (今後の姉妹都市交流のあり方に関する協議)
豊田市→ ダービーシャー	平成 14 年 (2002 年)	鈴木市長ダービーシャー県等親善訪問 (ダービー特別市市制 25 周年記念式典への出席)
-	平成 14 年 (2002 年)	英国大使館の植林活動「日英グリーン同盟」への参加表明のため、イングリッシュオークの植樹を実施。
ダービーシャー →豊田市	平成 17 年 (2005 年)	ダービーシャー県・ダービー特別市・南ダービーシャー市、フロントシャー市の各事務総長と英国トヨタ自動車㈱のスタッフが来豊。(本市との文化交流について協議)
ダービーシャー →豊田市	平成 19 年 (2007 年)	ダービーシャー県議員デイブ・ウィルコックス氏、姉妹都市担当ステファニー・ウォルシュ氏来豊 (2008 年 (平成 20 年) の姉妹都市提携 10 周年記念事業の打合せ)

ダービーシャー →豊田市	平成 20 年 (2008 年)	南ダービーシャー市議長マイケル・ベイル氏夫妻来豊 (2008 年 (平成 20 年) の姉妹都市提携 10 周年記念事業の打合せ)
豊田市→ ダービーシャー	平成 24 年 (2012 年)	太田市長ダービーシャーを訪問。 (2013 年 (平成 25 年) 姉妹都市提携 15 周年記念事業打合せ)
-	平成 25 年 (2013 年)	姉妹都市提携 15 周年記念式典を豊田市能楽堂にて開催。また、姉妹都市提携 15 周年を記念して、豊田市とダービーシャーの中学生が、1つのテーマについて共に考え、意見交換を行う「豊田・ダービーシャー子ども会議」を開催。
豊田市→ ダービーシャー	平成 26 年 (2014 年)	ダービーシャーへの豊田市職員派遣の実施。
豊田市→ ダービーシャー	平成 27 年 (2015 年)	ダービーシャーへの豊田市職員派遣の実施。
豊田市→ ダービーシャー	平成 28 年 (2016 年)	ダービーシャーへの豊田市職員派遣の実施。



Golden Days Abroad in Derbyshire
～ 姉妹都市ダービーシャーを訪ねて ～ 2017

第3回ダービーシャー高校生派遣帰国報告書
編集・発行 豊田市 経営戦略部 国際まちづくり推進課
〒471-8501 豊田市西町 3-60 TEL0565-34-6963
e-mail : kokusai@city.toyota.aichi.jp